



育ちの芽

副園長 奥村 綾

新年度がスタートし、早2週間が過ぎました。

今年の新入園児は、初日、2日目と大号泣して、先生に抱きかかえられながら保育室に行く子ども達が多く見られましたが、3日目を過ぎた辺りから少しずつ落ち着き始め、一人で保育室に向かう子や、友達と手をつないで行く姿が見られるようになってきました。まだまだ、朝泣いて登園する子もいますが、おうちの人と離れる瞬間だけ寂しくなるようで、保育室に入ったり、園庭で遊んだりする頃には笑顔が見られますので、明るく送り出してあげてくださいね。

また、進級児は、去年の保育室を覗きに行く子、前のクラスの先生や友達に会いに行く子や、自分の弟や妹、新入園児が泣いて登園している姿を心配して、年少組の保育室まで手をつないで送って行ったり、遊びに行ったりしている子もいました。

ただ、例年、ようやく慣れ始めた頃に、GWに入り、連休明けに調子を崩す新入園児や進級児も多く見られます。保護者の皆さんにとっては、まだまだ心配は尽きないと思いますが、徐々に慣れていきますので、おおらかな気持ちで対応していただければと思います。

～うきうきタイム～

昨年度より取り入れているうきうきタイム(朝の準備を終え、保育室か戸外を選んで遊ぶ)を、年長・年中組は、新年度が始まった翌日から行っています。うきうきタイムがある日は、ピロティのボードに、入っても良い保育室や遊びのコーナーを掲示し、片付けの時間を時計で示しています。昨年度までは、音楽が流れると片付けをすると決めていたのですが、自分達で時間を意識して行動できるように、片付けの時間を示した時計を設定しました。初めは、マイクで片付けを呼びかけることもありましたが、1週間ほどたった頃には、「先生、そろそろ片付けの時間だね」と、時間に気づいて教えてくれる子もいました。新年度当初のうきうきタイムでは、以前のクラスの子も達が集まって遊ぶ姿が多く見られました。新しいクラスに慣れるまで、自分なりに安心できる場所を探して過ごしている様で、片付けが終わって各保育室に入る時には、違うクラスになった友達と、「また会おうね」と声を掛け合っている年中児もいました。

うきうきタイム中、戸外での子ども達の様子を見てみると、さくらの花びらを集め、花の中の色の違いに気づいたり、ビニール袋に入れ、水を入れて花びらが浮かぶ様子を観察したり、泥団子作りに必要な水、土、さら砂などの場所を自分で見つけ、友達に教えてあげたりする姿、ビールケースを倒れないように積み上げて家を作ったり、ダンゴムシ探しをしたりするなど、それぞれが考えながら行動する姿から、子どもの『育ちの芽』をたくさん見つけることができます。

このように遊びの中には、さまざまな『育ち』『学び』があります。幼児期の遊びの中の『学び』は、小学校の学習とは違って、目には見えにくいと言われています。そこで可視化を図るために、昨年度【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿『10の姿』】が出されました。これは、到達すべき目標ではなく、卒園までの子どもの成長を考える視点と目安です。子ども達の主体的な遊びを通じて、総合的に育まれます。今後も、この『10の姿』を手掛かりに、遊びの中から育つ『非認知能力』(想像力・創意工夫する力・探求心や表現力・協調性・思いやり・意欲・積極性・根気など)を育てる様々な工夫をしていきたいと思っています。

保護者の皆さんも、連休明けから始まるいちにち先生にぜひご参加いただき、さまざまな活動から、子どもの『育ち』『学び』を見つけ、共有していただければと思います。

なお、年少組は、園生活に慣れ、朝の準備など自分でできるようになった6月頃からうきうきタイムに参加する予定です。

～話し合い～

昨年度保育内容の見直しに伴い、クラスで話し合う機会を多く取り入れ、自分の考えを言葉で表現したり、相手の話を注意深く聞いたりする経験を積み重ねてきました。年長児のクラスでは、さっそく始園日に、『年長でいたいこと』についての話し合いをしました。『シャボン玉作り、紙飛行機対決、夢の世界を作りたい、花見、流しそうめん』など担任の予想を超え、さまざまな意見が出ました。実現に向けて、自分たちで考え、話し合いを進めるクラスもあります。年長組の子ども達の姿を見ていると、昨年度からの積み重ねにより、言葉による伝え合いを楽しむ姿が多く見られます。時には、意見のぶつかり合いや、もめ事など起こることもありますが、子ども同士の思いのぶつかり合いは当然のこととして起こります。このぶつかり合いは、子どもの発達にとって重要な経験であるということ踏まえ、一人ひとりが『自分の思いを表現』できるように、保育を進めていきたいと思っています。

～外国人講師～

今年度より、月曜日にマイク先生、水・金曜日にシェイン先生が来園しています。うきうきタイムでは、園庭でドッジボールやサッカーなど、一緒に身体を動かして遊び、保育室で恐竜の絵本を英語で読んでもらったり、「私の好きな色はピンクです」って英語でどう言うの？と質問したり、逆に一生懸命日本語を教えている子もいます。このように関わり合いながら、自然と英語に親しめるようにしています。

～土管設置～

「トンネルだー」「ドラえもんみたい」と園庭に登場した土管に興味津々の子ども達。中に入って響く声が好きくて歌ったり、叫んだりしている子やビールケースでバリアードを作り、中に何人も入って楽しんでいる子、上にみんなで乗ってくつろいでいる子など様々な楽しみ方をしています。これからも子どもがわくわくするような園庭作りに取り組んでいきたいと思っています。

～こいのぼり制作～

園庭に泳いでいるこいのぼりを見たり、ホールでこいのぼりのうろこや目などを観察したりしながら、こいのぼり遊びを楽しんできました。そんな中、各保育室に、こいのぼり制作コーナーを設置し、様々な素材や材料を準備しました。作りたいとすぐに作り始める子、すぐには興味を示さない子など様々ですが、仕上がったこいのぼりを、保育室に飾っておくと、それを見た他の子ども達が、作りたい気持ちになったり、「明日作るわ」と自分で計画を立て、自分のタイミングで作る子もいました。園庭に泳いでいるこいのぼりを見て、

「先生ふきながし作らな！」と気づいたり、年中・年長のクラスに矢車セットを準備しておく、

「自分でつける！」と矢車を組み立て、まごい、ひごいを付けて、矢車がクルクル回ることを楽しんでいる姿も見られました。まだまだ、園でこいのぼり制作や遊びを十分に楽しみたいと思いますので、持ち帰りは、5月10日(金)の保育参観の日を予定しています。

☆裏面に、【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿『10の姿』】を記載しています。

興味のある方はご一読ください。